令和4年（2022年）
9月30日
第 780 号
発行
学校法人文京学院
http://bgu.ac.jp

文京学院

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学院
文京学院大学外国語学部・経営学部・人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校
文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301

中学　バレーボール部 東京都大会「第４位」関東大会「ベスト８」全国大会出場

中学バレーボール部は、今年も激戦の東京都予選を突破し、関東・全国大会に臨みました。

7月末に開催された東京都中学校バレーボール選手権大会では「第4位」となり、関東大会へ駒を進めました。11大会連続31回目の出場となった「第57回関東中学校バレーボール大会」（8月8日～10日/栃木県）では8強入りを果たし、昨年に続き全国大会への出場権を獲得しました。2大会連続27回目の出場を果たした「第52回全日本中学校バレーボール選手権大会」（8月19日～22日/秋田県）では予選グループ戦を快勝し、決勝トーナメントに進出しました。同トーナメントでは、初戦を突破し、2回戦で前年度優勝校の金蘭会中学校（大阪）と対戦しました。試合は2セットとも終盤までもつれる大接戦となりましたが、惜しくも敗れてしまいました。大会では金蘭会中が連覇を達成。悔しい敗戦となりましたが、中学3年生にとっては、3年間を締めくくるにふさわしい試合となりました。

横溝采美主将（3栗）コメント

私たちは目標とする「日本一」になるために、チーム全員で最大限の力を出して戦いました。関東大会や全国大会に出場するために色々な方にお世話になり、感謝の気持ちも込めて試合に臨みました。良い結果で恩返しをできなかったことが悔しいです。金蘭会中学校との試合では、全員が思いきりプレーをしましたが、最後の1点が届かなかったことがこれからの一番の課題になりました。この先も私たちを支えてくださるたくさんの方々への感謝を忘れず、レベルの高い東京都で戦うプライドを持ち続けてがんばりたいと思います。

チーム全員で勝利を目指した生徒たち

【全国大会】

予選グループ戦	本校 2（25-18、25-23）0 札幌大谷中学校（北海道）
決勝トーナメント１回戦	本校 2（25-22、25-16）0 山形第六中学校（山形）
同２回戦	本校 0（24-26、23-25）2 金蘭会中学校（大阪）

高校　カラーガード部 TALLFLAG部門「第1位（全国優勝）」「全国高等学校ダンスドリル選手権大会2022」

7月30日・31日に、東京体育館で開催された「全国高等学校ダンスドリル選手権大会2022」において、高1～高2までの部員総勢12名が出場し、見事、TALLFLAG部門において「第1位」となり、全国優勝することができました。

高校2年生は、全員高校から始めたということもあり、難しい部分もありましたが、学年問わず互いに切磋琢磨し合い、このような結果を出すことができました。

「第1位」になった団体は、閉会式で再演技を行うことになっており、スポットライトの当たる華々しい舞台で演技を披露しました。

そのときの生徒たちの演技は、笑顔満載で非常に心に残るものでした。生徒たちにとってもそのような大舞台で演技を披露できたことは貴重な経験になったと思います。

全国を制覇した生徒たち

大学　４年ぶりに開催「五街道ウォーク2022 in 甲州街道」

「五街道ウォーク」は2年に1度、日本橋を起点とする5つの街道の1つをリレー方式で歩行する文京学院大学の伝統行事です。1994年に始まり12回目を迎える今回は「甲州街道」を舞台に実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響から度重なる延期となり2018年以来の実施となりました。今夏は、8月22日～8月30日に諏訪区、甲府区、大月区の3区間に分けて、1泊2日で歩行しました。3区間で学生・教職員約120名が参加し、大学間で交流を続けている岐阜聖徳学園大学、東洋学園大学からも参加者を迎え、交流を深めました。

この日のために下見や準備を積み重ねてきた50名を超える実行委員会のスタッフが、歩行のサポートや各スポットの案内・バスガイド、熱中症対策としてドリンクや飴等の協賛品配布など裏方として活躍しました。

各区代表のコメントと写真は2面・3面で紹介しています。

櫻井さん

五街道ウォーク実行委員会 学生代表 櫻井彩人（経営学部3年）

2018年の本番から4年経ち、先輩たちがつないできてくれたイベントを委員一同無事終了することが出来てうれしく思います。当日まで、参加者の人たちが楽しんで満足してくれるかどうか不安で仕方がなかったのですが、イベント終了後に笑顔で「楽しかった！」と言ってくださったので、成功したという実感と共に、この委員会に入ってよかったという思いがこみ上げてきました。

大学　24名の留学生を迎え「国際連携教育プログラム」開講式を実施

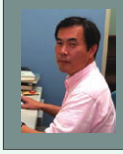
櫻井学長（前列左から5人目）を囲む留学生と関係者

8月26日、3年ぶりに「国際連携教育プログラム」開講式が本郷キャンパスB’sダイニングで行われました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で留学生の受け入れが中止となっていましたが、今年はアメリカ（セント・ベネディクト／セント・ジョンズ大学【CSB/SJU】）から17名、カザフスタンから2名、リトアニアから1名、ウズベキスタンから2名、ブルガリアから2名、合計24名の交換留学生が「国際連携教育プログラム」で学びます。

当日は、櫻井隆学長による開講の辞から始まり、CSB/SJU引率者のJeffrey DuBois先生と留学生がそれぞれ自己紹介をしました。そして、島田燁子名誉学院長と島田昌和学院長・理事長の紹介の後、記念写真撮影が行われました。

開講式後に実施されたレセプションでは、恒吉僚子副学長の挨拶後、出席者一同楽しく歓談し、本学の学生代表としてSLF委員会の慶田元裕佳委員長（外国語学部3年）による歓迎の挨拶も行われました。

GREEN SPIRITS



大学を社会にひらき、教育・研究・地域をつなぐ

学長補佐・社会連携研究所長・
ふじみ野キャンパス教職課程センター長・
人間学部教授　木村浩則

近年、大学と地域との関わりが改めて問われています。文科省は、社会連携・社会貢献(以下、社会連携)を教育、研究に続く大学の「第三の使命」として位置づけ、「社会」との連携強化を求めています。ただ「第三」という捉え方では、三者が個々バラバラなのものとして捉えられかねません。また、教育と研究、どちらが第一でどちらが第二？とつい突っ込みを入れたくもなります。

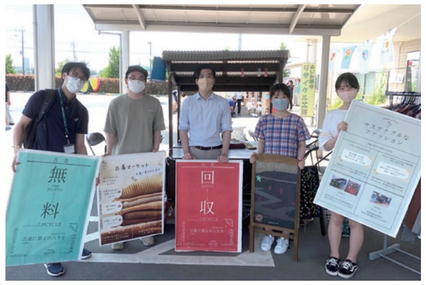
そのうえ問題なのは、大学教職員に、何か荷物がもう一つ増えたように受け取られかねないことです。文科省からは、第一、第二の使命に関わって「あれも」「これも」と過大な要求を突きつけられ、その荷物の中身は増えるばかりです。さらに三つ目の荷物が課せられることに対して身構えてしまうのは当然のことでしょう。

しかし、教育と研究と社会連携は、本来「つながり」を持っており、切り離されて理解されるべきものではありません。教育と研究の「つながり」について、両者を区別せよという大学論が存在するのも事実ですが、やはり研究と教育の「つながり」、相互作用的な関係性は多くの大学人が重視するところでしょう。それと同様に、社会との「つながり」を欠いた教育・研究というものもあり得ません。学生教育と大学の研究は、社会に還元されるべきものであるだけでなく、社会は、学生の学び、あるいは研究にとって貴重なフィールドであり、資源であるからです。しかしあまりに「社会」を意識し過ぎてしまうと、大学が、就職予備校や、企業・自治体等の下請け機関になってしまい、教育研究の自律性・独立性を歪めてしまいます。そのため、互いの独立性・自律性を前提にした、いわゆるパートナーシップが重要になるのです。

大学に求められているのは、その研究と教育を、社会にひらき、つなぐことではないでしょうか。つまり、社会連携を「第三の使命」と位置づけるというよりも、教育と研究と社会をつなぐことこそが大学の使命であると私は考えています。

大学 ふじみ野「エコラボフェスタ」に学生がブースを出展

6月25日、ふじみ野市が主催する「エコラボフェスタ」に、本学の「まちラボふじみ野」に所属する学生たちが、屋台プロジェクトの一環として「古着リメイク&リサイクル」のブースを出展しました。



当日のブースの様子

屋台プロジェクトは、15名ほどの学生が、「日常の小さなサードプレイス」をテーマに、移動式屋台を活用したコミュニケーションの場を学内外に生み出し、キャンパスや地域を活性化させることを目的に活動しています。

今回は、これまでの活動がイベントの趣旨と合致するため、ブース出展することとなりました。

「エコラボフェスタ」での「古着リメイク&リサイクル」ブースでは、ふじみ野キャンパス内で取り組んでいる古着マーケットのパネルの展示、古着を使って学生が制作した作品の展示や、コースター作りの体験ワークショップ等が行われました。

当日運営した学生からは次のようなコメントが寄せられています。

古着を使ったコースター作りに沢山の方が興味を持ってくださって嬉しかったです。
高橋美伊（人間学部心理学科2年）

「エコラボフェスタ」を通して地域の方と関わり、色々な経験ができました。（小松葵 人間学部心理学科2年）

思っていた以上の反響があり、大変ありがたいです。今後ともよろしくお願いいたします。
古川真聡（人間学部コミュニケーション社会学科4年）

大学 保育実践研究センター オンライン「公開研究会」を実施

6月25日、保育実践研究センター主催の、第17回公開研究会「保育者・教育者の資質～明日の自分を考える～」がオンラインで実施されました。対象は、教育・保育関係者、本学卒業生で、約35名の参加がありました。参加教員は、森下葉子センター長、須藤佐知子副センター長、小栗俊之教員研究員、加須屋裕子教員研究員、椛島香代教員研究員、柄田毅運営委員（いずれも人間学部児童発達学科）。ゲストコメンテーターとして、伊藤英夫氏（元・文京学院大学人間学部教授）も参加されました。

当日は、「多様性」「家庭・保護者支援」「保育・教育実践」「協働性」という4つのテーマでディスカッション、質疑応答等が行われました。当日の様子について、森下センター長から以下のコメントが寄せられました。

オンライン開催した「公開研究会」の様子

今年度は「保育者・教育者の資質～明日の自分を考える～」をテーマにオンラインで開催しました。参加人数は多くはありませんでしたが、その分、グループディスカッションは、職種や経験年数の垣根を超えて保育・教育現場での課題について話し合い、共に考えることができたのではと思います。参加された先生方の「明日」につながる時間となっていれば幸いです。児童発達学科卒の方の参加も多く、研究会終了後のフリータイムではそれぞれの近況を聞くことができ、現場で奮闘する卒業生の姿にエネルギーをもらいました。最後に、本会開催にご協力いただきました教職員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

大学 「文京学院大学大使」による授業内講演を実施

7月4日、外国語学部「日本語教育概論」（担当教員：新井保裕准教授）の授業で、現在日本語教師としてご活躍されている、本学外国語学部卒業生の古城絢香氏（外国語学部2010年卒）による講演が行われました。古城氏は、本学の大学開学30周年を記念して創設されたPR大使「文京学院大学大使（BGU Ambassador）」に任命されています。

授業当日、古城氏にはオンラインでご参加いただき、ご自身の在学中の学生生活やゼミ活動、海外フィールドワーク、ボランティア活動、そして日本語教師を目指すきっかけについて、さらに、現在の仕事に至るまでのキャリア形成と日本語教師という仕事や活躍の場などについてお話をいただきました。

授業後半では、日本語を学習者の立場から客観的にとらえるクイズ形式の講義も交えながら、最後の質疑応答では学生と意見交換をする場面も見られ、貴重な授業機会となりました。

オンライン参加の古城氏と学生たち

大学 厚生労働省より講師を招聘 就活ハラスメント防止に関する特別講義を実施

7月7日、「社会調査実習Ⅰ」（担当教員：岩舘豊助教）の授業の一環として、厚生労働省雇用環境・均等局雇用機会均等課の方をお招きし、「就職活動の前に知っておいてほしい法律・制度」をテーマに授業を実施いただきました。

今回は、「就活におけるジェンダー差別」をテーマに学ぶ上で、差別の現状や法令、対応のポイントなどをインプットすると同時に、3年生の就職活動本格化を前に、学生自身がハラスメントを回避できるよう、基本的な知識を身につけることを目的として行いました。

厚生労働省では就職活動中の学生等に対するハラスメント防止対策を強化し、安心して就職活動に取り組める環境を整備するため、学生や企業に向けて様々な啓発活動が実施されています。

授業当日は、男女均等な採用選考ルールや就活セクハラ、労働法など、「就活」に関するトピックに焦点をあて、クイズやディスカッションを交えながら、講義をしていただきました。

講義を聴いた学生からは「就活ハラスメントを受けたと感じた場合の、証明方法は？」「就活生は雇用関係がないため労働基準法適用外となり、法的な処罰を求められないのではないか？」といった具体的な質問が活発に寄せられ、就活ハラスメント意識の向上が感じられました。

当日の特別授業の様子

大学 留学特集（前編）

本学では、世界の感染状況を鑑みたうえで、今夏6ヵ国への海外留学を再開しました。今回は留学特集の前編として、2ヵ国の留学先情報と参加学生のコメントをお伝えします。（次号、後編に続く）

短期語学留学（韓国・仁荷大学）

日程：2022年7月29日～8月20日
人数：2名

8月1日に仁荷大学で歓迎式が開催され、外国語学部の新井保裕准教授が引率者代表挨拶を行いました。

新井准教授のコメント

コロナ禍で各大学、引率教員の派遣が難しい中で、本学は教員引率を行い、私が韓国語による代表挨拶を引き受けることになりました。プログラム初日に歓迎式が行われ、副学長のスピーチや大学、プログラム紹介のあとに、私から挨拶いたしました。歴史的にも国際的かつ先進的な都市である仁川で、世界から多くの学生が集まり、交流しながら韓国のことばや文化を学ぶことに大きな意義があることをお伝えしました。歓迎式は非常に盛り上がり、当日の様子が現地新聞でも報道されています。

歓迎式での集合写真

韓国語で挨拶を行う新井准教授

参加学生のコメント

ダツ・ニコル ルイーズ
外国語学部4年

3週間で勉強と観光を詰め込んだプログラム。授業がハードスケジュールのため少し大変ではありながらも、それ以上に楽しいことがたくさんあった3週間でした。授業が終われば、みんなで韓国を散策し、課外学習もあったので勉強ばかりではなく、韓国を楽しむことができました。韓国の文化、経済、ビジネスについて学べた他、様々な国からの学生もたくさん参加していたので世界についても学べたような気がします。とても充実した夏でした！

現地学生との授業の様子

短期フィールドワーク（カナダ・ブロック大学）

日程：2022年8月8日～8月29日
人数：16名

参加学生のコメント

助川菜々花（写真右）
保健医療技術学部
理学療法学科3年

ようやくカナダの空気を吸った時感動と期待、自分の心にある言葉だけでは表現することが出来ないような感覚に包まれました。ホストマザーや渡航メンバーとの何にも変え難い充実した日々、それとは裏腹に自分自身の英語力、文化の違いや差別など海外への淡い憧れだけではどうにもならない部分も学びました。今回の留学は楽しかったの一言だけで終わらせることが出来ないからこそ、より現実的に海外進出の夢を考えられるようになりました。

自分自身の夢のためにこの経験が出来て心から良かったと感じています。

プレゼンテーションに向けて作成した資料

大学 外国語学部 海外フィールドワークを実施

8月から9月にわたり、外国語学部の25名の学生が、カナダ/韓国に分かれ、現地調査を目的としたフィールドワークに卒業研究の一環として参加しました。

外国語学部の海外フィールドワークは、新型コロナウィルス感染症拡大の影響から3年ぶりの実施となり、学生にとっては待ちに待った渡航となりました。今後も「現地でしかできない体験」を通し、異文化の相互理解を深め、国際社会で活躍する力、また将来に向けての人的ネットワークの形成にもつなげていきます。

英語教育特講（2022 カナダフィールドワーク）

日　程：2022年8月15日～8月31日
場　所：カナダ ノバスコシア州 ハリファックス
人　数：3名 【引率教員：山内ダーリーン准教授】

参加学生のコメント

新井達也（3年生）

今回のフィールドワークでは、現地の大学や会社に行って、SDGsに繋がる活動を勉強できました。プラスチックパッケージ会社での見学では、SDGsの面で工夫しているプラスチックの製作過程を学ぶことができました。SDGsに関するCBE授業とリンクした内容で、とても勉強になりました。また、ホストファミリーをはじめ、現地の人と英語でコミュニケーションできたことが嬉しかったです。

プラスチックパッケージ会社見学の様子

ダルハウジー大学にて

国際文化フィールドワーク実践Ⅱ

日　程：2022年8月29日～9月5日
場　所：韓国 ソウル特別市
人　数：9名 【引率教員：新井保裕准教授】

参加学生のコメント

山城陽菜（3年生）

国際文化フィールドワーク実践Ⅱでは韓国の伝統家屋のカフェや韓服を着て景服宮に行きました。さらにHYBE INSIGHTや歴史ドラマの撮影などでよく使用される龍仁大長今パークなどにも行きました。また韓国の学生との交流では交流後に一緒に人生4カットを撮りに行き、ご飯も一緒に食べに行くなど貴重な体験をすることができました。

韓国ドラマ「梨泰院クラス」ロケ地にて

景福宮での韓服体験

国際ビジネスフィールドワークⅠ

日　程：2022年8月28日～9月6日
場　所：韓国 ソウル特別市
人　数：13名 【引率教員：金彦叔教授】

参加学生のコメント

樽見有菜（3年生）

今回の10日間の韓国フィールドワークを通して、コロナ禍ということもあり、出国前に必要なビザ申請など準備の段階からこれまでにない経験をすることができました。韓国で出会った現地の学生と食事に行き会話をすると、日本との文化や言葉の違いを通して、どちらの国の良さも感じることができました。また韓国の学生からの視点で日本の話を聞くことができてとても新鮮でした。帰国後も連絡を取り合えるような友人ができ、本当に充実したフィールドワークになりました。

最終日の打ち上げの様子

光云大学での学生交流

五街道ウォーク 2022 in 甲州街道 各区代表学生からのメッセージ

諏訪区区長 石渡成也（経営学部3年）

石渡さん

今回の五街道ウォークin甲州街道は、本当に楽しく、自分の中に一生残るものになりました。区長としての仕事は、多岐にわたり、大変でくじけそうになることもありました。しかし、多くの仲間に支えられながら乗りきることができ、一緒に成し遂げた仲間たちに感謝しています。今回のイベントを通して、今までの経験の中で最も仲間と協力することの大切さを感じることができました。本当に最高なイベントでした。

■ 諏訪区フォトギャラリー ■

甲府区区長 及川祐綺（人間学部4年）

及川さん

区長としての責任を持ちながら、本番まで取り組んできました。甲府区のメンバーが一丸となり、参加者の皆様に最大限楽しんで頂けるよう、行程を練ってきました。実行委員として、参加者目線を常に意識し、自分達が楽しいと思えるような内容を4年前から考えてきました。本番当日、参加者の楽しそうな表情を見ることができ、この実行委員会に入って良かったと感じられました。ありがとうございました。

■ 甲府区フォトギャラリー ■

大月区区長 池田翔真（経営学部3年）

池田さん

諏訪区、甲府区、大月区の3区間全てに参加させていただきました。期間中、セレモニーの進行を担当したり、参加者や岐阜聖徳学園大学の学生との交流を経て、新しいことをたくさん知り、交流を深めることで、得るものがたくさんありました。これは五街道ウォーク実行委員会の仲間、そして参加してくださった皆様のおかげだと思っています。ありがとうございました。

大月区区長 吉田翔太（経営学部3年）

吉田さん

大月区は準備期間が短かったため、企画通りに運営することができるか、なにより参加者の方にご満足頂けるか、とても心配していました。本番2日目は天候に恵まれず、急遽想定していた歩行ルートの変更もありましたが、実際に参加者の方より「楽しかった！」という声をいただいて安堵しております。また、現場での判断力にお褒めの言葉をいただき、自分の強みの発見にもなりました。支援いただいた全ての方に感謝申し上げます。

■ 大月区フォトギャラリー ■

中高　2つの探究活動に生徒が参加

中学・高校の生徒たちが、グローバルな企画に積極的に参加し、探究活動で学びを深めています。

7月18日～20日の3日間、駒込キャンパスではGlobal Village（プログラム提供：株式会社LbE Japan）が開催され、中学生13名・高校生16名が参加しました。

「世界は一つの村」というコンセプトのもと、世界中から集まる留学生リーダーと繋がるプログラムです。 今回は、6名の留学生がグローバルリーダーとして、生徒達とゲームやプレゼンの指導をしてくれました。以下、参加した生徒の感想です。

グローバルリーダーに指導を受ける生徒たち

1日が終わった後には自分の英語力が向上していると実感できました。毎日プレゼンを聞いたり、質問をしたり、意見交換をすることで、鍛えられました。
グローバルリーダーの皆さんは、とにかく明るく、また、周りの新しい仲間とも助け合いながら作業をし、一人一人が自分の意見を言える環境でした。
私は高校生になって色々な事に挑戦するようになりました。挑戦することで失敗に終わってしまうこともありますが、今回は大成功でした。Global Villageに関わる皆さん、新しい仲間たち、楽しい時間を本当にありがとうございました。（高2藤 吉田 実桜）

8月1日から5日まで岩手県釜石市で開催された2022 Atlantic Pacific Japan グローバルリーダーシップSummer Camp ～海と日本 PROJECT～(主催：一般社団法人 Atlantic Pacific Japan)に、本校生徒9名が参加しました。（全参加者海外含め29名）

イベントに参加した全国の中高生

「海を尊重し守り、安全な環境で海を楽しむことができる人々を育む」目的のもと、マリンスポーツ体験、海洋プラスチック問題、津波被災と復興についてなど盛り沢山な内容でした。以下、参加した生徒の感想です。

海では救命ボート試乗、セーリング、漁業体験をしました。救命ボートはとても速く、風を切る感覚が新鮮でした。操縦も体験しましたが、ハンドル操作やスピード調整が難しかったです。漁業体験では船上で採れたてのホタテをいただきました。調味料はありませんでしたが、海水の塩味とホタテのまろやかな甘さが美味でした。セーリングは、マンツーマンで教えて頂き、他にもロープワークや救助する時の縄の投げ方などを習いました。
普段海が近くに無いので4日間も海で過ごせたのは良い思い出です。それと同時に海の怖さも学びました。救助での優先順位は、救助する人、救助用の船、最後に救助を必要とする人なのだそうです。救助する人が安全でなければ助けることが出来ない。当たり前のことですが、いざ言葉に出されると衝撃的です。海は楽しいだけでなく、命が簡単に奪われる場所であるということも学べて良かったです。（高1藤 新明 碧）

大学　奇跡の花「リュウゼツラン」ふじみ野キャンパスで２年連続の開花

リュウゼツランは、奇跡の花の名の通り50年以上の時を越え咲く花ですが、ふじみ野キャンパス内のリュウゼツランは、1998年頃9株が移植され、昨年7月10日に初めて1株目が開花をしました。
そして今年5月、2つのリュウゼツラン株から茎が成長をしはじめ、7月20日に1株目が開花、7月28日には2株目も無事開花し、2年連続、見事2株の開花となりました。
この夏も黄色い花が咲き誇り、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、近隣住民にも一般公開されました。

2株並んで開花したリュウゼツラン

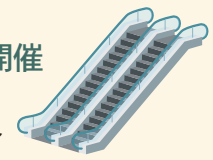
大学　レイクランド大学とのバスケットボール部合同練習を実施

今年4月に協定が締結されたレイクランド大学ジャパン・キャンパスと本学とは、SLF（スチューデントリーダーズフォーラム）委員会が中心となり、様々な交流企画を進めています。7月12日、部活動における交流第一弾として、両大学のバスケットボール部の合同練習が行われました。
当日は、夕方から本学メセナ（体育館）にて、レイクランド大学から10名が参加し、総勢約30名でバスケットボールの練習やゲームを行いました。初対面の学生同士でしたがバスケットボールを通じてすぐに打ち解けた雰囲気の中で交流を進めました。
課外活動においては今後もスポーツや文化活動において交流を続けていく予定です。

初交流となった両大学のメンバー

告知　「エスカレーターの安全な乗り方アイデア募集 2023」開催

～利用者が安全にエスカレーターに乗れる社会を目指して！～



詳しくはQRコードから

高校　「とうきょう総文2022（第46回全国高等学校総合文化祭東京大会）」オリジナルミュージカルに出演

7月31日に東京国際フォーラムで行われた「とうきょう総文2022」の総合開会式で、本学の森くるみさん（3楓）がオリジナルミュージカルに出演しました。コロナ禍でのキャストオーディションからスタートし、努力を重ねてきた森さんのコメントを以下に紹介します。

この企画は、プロの講師の先生方に指導していただき、他の学校の高校生達と共に、一つのミュージカルを作り上げるというものでした。これは私が今やりたいことであり、たくさんの方にミュージカルを届けられるのではないかと思い、参加を決めました。オーディションに合格し、本番まで約1年半、日々ミュージカルの稽古に励むことが出来て、一日一日が本当に幸せでした。コロナ禍ということもあり、リモートでの稽古も多く、苦労することも多かったのですが、無事に本番を迎えることが出来、多くの方に見ていただけて本当に嬉しかったです。
私は、このミュージカルの役どころで、コロナ禍で公演が中止になってしまう危機に陥る演劇部の部長を演じました。自分も去年まで演劇部の部長をやっていたので、重なる部分が多く、自然に演じることが出来ました。またこの役どころの彼女は、人から嫌われるのが怖くて、本当の自分を隠して偽りの自分を演じてしまっている一面も持っているキャラクターでした。その心情を歌うナンバーは、とても多くの高校生の方達の共感を集め、「涙が出るほど感動した」と言ってくださる方もいて、自分が伝えたいことが伝わったことがとても嬉しかったです。
終演後に嬉しい言葉をたくさんいただいたので、やって良かったと感じ、同時にこれからも多くの方々にミュージカルの感動を伝えていきたいと思いました。

熱演する森さん

ミュージカルメンバー全員での演技シーン

ひたむき・まえむき・おもむき
tomoちゃん
第85回
画：美術部（中学）ゆりか